

勝負の一年、飛躍の年に

闘春 諸課題の前進に向け奮闘しよう



No. 2597
2011年1月1日
発行責任者 橋本 昭二
編集責任者 武田 昌仙

仙台地方本部
橋本執行委員長



二〇一一年を迎え、組合員と家族の皆さんに、新春のお慶びを申し上げます。昨年は採用差別事件の解決に向け、「四者・四団体」の糸乱れぬ団結と対応で、4月9日に示された政府の解決案の受け入れを決定。6月28日に最高裁に於いて和解が成立し、採用差別事件としては解決することができました。

この解決は、23年という長期の闘いを、諦めることなく粘り強く闘い続けた闘争団とその家族の闘いと、職場であらゆる差別を受けながらも自らの問題として闘い続けた国労組合員の闘い、さらには様々な形で支援していただいたみなさんの力があって実現したものであり、その支援に感謝を忘れてはなりません。

しかし、雇用という大きな課題が残されています。雇用問題が解決しなければ、全面解決にならないことから、何としても年度内に実現させるよう、本部の取り組みに集中してまいり

ます。

第二には、安全・安定輸送の確立についてです。一昨年9月に発生したトロッコ線張替工事中の労災死亡事故を受け、その原因究明と対策の確立が重要との認識で取り組んできましたが、残念ながら不十分な内容と指摘しなければならぬと思います。

JR東日本は、社員・グループ会社社員が非常事態であるという認識に立ち、再発防止に全力を挙げるとしてきました。その不十分さが現在も止むことなく事故として現れています。事故の根本的原因を曖昧にすることなく、取り組むことが最重要課題だと思っています。

設備部門に於けるメンテナンス体制や、検修部門に於ける業務委託の拡大、営業部門に於ける1人体制や無人化等、効率化による安全やサービスの低下は、事故を引き起こす最大の要因であると指摘しなければなりません。私たちは、職場実態をしっかりと見詰め、仕事・安全総点検の取り組みから、安全というサービスを提供するために奮闘するものです。

第三には、国労にとって重要な課題である組織拡大についてです。

今日まで20数年にも及ぶ長期の国労敵視・国労つぶし攻撃を受けながらも、差別・選別に屈することなく

闘い続け、国労の存在を無視することができない状況を作り、一括和解による「公平・公正な人事・労務管理」を約束させ、採用差別事件も解決させてきました。このことは、一人ひとりの組合員と国労組織全体の闘いの成果であり、胸を張って誇れるものであります。この素晴らしい国労の組織と運動を、次の世代に引き継ぎ、発展させていかなければなりません。

今日まで苦しい闘いを強いられてきたながらも、負けなかったことは生き方の正しき、運動の正しき証であります。これで満足するのではなく、継承発展させることが求められています。

各支部・分会で様々な活動が展開されてきましたが、一方では、新採者に対するオルグができないように勤務が設定されたり、寮までバスで移動させたりと、会社の一部労組と癒着していると指摘せざるを得ない対応により不利な状況が作り出されています。

また、職場に於ける活動でも、和解後も差別が解消されていない実態もあることから、国労への加入には躊躇することが見受けられるようです。諦めずに工夫した取り組みの継続をお願いするものです。何よりも本気になって国労に加入させようという姿勢が伝わる取り組みが必要です。大いに議論し実践していきましょう。



宮城県支部
秋山執行委員長

年遅れの実施という結果に終わり、非常に残念な結果でした。

日本経済は回復どころか低迷が続いている状況であり、春闘情勢も厳しく見えておかなければなりません。

ワーキングプアが拡大し、「働けない、働いても生活がぎりぎり、物を買えない、結婚できない」という深刻な現実があり、経済を益々冷やす要因となっています。

労働組合が堂々と賃上げ要求を掲げ、非正規雇用の正社員化や労働条件改善を求め、労働者全体の待遇改善を進めなければならぬ時期にきています。今春闘を、職場を基礎に自らの要求を掲げ、あらゆる取り組みを展開していきましょう。

最後に、今年は統一地方選挙が行われます。地方から政治を変えるために全力で取り組み、組織内候補は勿論のこと、推薦候補の全員当選と、革新勢力の躍進を実現させましょう。

山積する諸課題の前進に向け、地方本部が先頭に立ち、奮闘する決意を申し上げ、執行委員会を代表して、新春のご挨拶とします。頑張ります。

1点目は、JR不採用問題の全面解決に向けてです。この闘いは、一昨年の政権交代もあり、11月以降解決に向けて動き出し、昨年4月に政府から「解決案」が示され、国労として第78回臨時全国大会を開催し、政府解決案の受け入れを決定してきました。6月には最高裁判所において政治的和解が成立しました。

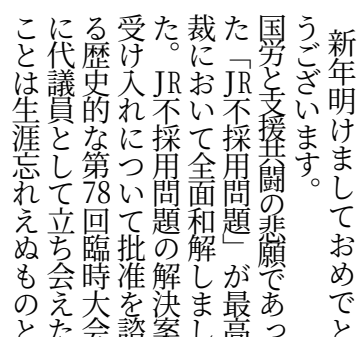
しかし、解決は金銭面だけにとどまっており、「雇用問題」が残っています。政治情勢が混沌とする中、昨年10月に、「四者・四団体」は四党に対して「雇用」に関する要請書を提出し、来年4月までの雇用の確保を求めてきています。

現在闘争団の仲間、生活支援カンパを打ち切られ、「解決金」ももらえない中で生活に苦しんでいます。私たちは、早期の雇用確保を政府に求めるとともに、生活支援の物資販売の協力も取組み、支援していかねければなりません。

今しばらくのご協力をお願い致します。

2点目は、職場の労働条件改善についてです。この間の合理化によって、仕事に迫られている状況になってきています。こうした中、体調を壊し精神疾患や病気に陥っている人が増えてきています。こうした状況は労働組合として改善しなければなりません。社会の主人公である私たち労働者が、健康で安心して働き続けられる職場にしていかなければなりません。

「仲間の健康を気遣う」ことを「仲間と話し合う」ことから始め、職場の労働条件改善の運動を取り組ん



福島県支部
小檜山執行委員長

新年明けましておめでとうございます。

国労と支援団体の非難であった「JR不採用問題」が最高裁において全面和解しました。JR不採用問題の解決案を受け入れについて批准を諮る歴史的な第78回臨時大会に代議員として立ち会えたことは生涯忘れえぬものと

3点目は、組織の強化・拡大についてです。国労にとって重要な課題の一つでもあります。仲間同士をつなぐ運動が本音に大事になっていきます。「仲間を一人にしない」「素直に話が出来る環境」を作ることが大切です。この運動を分会のみならず議論し、取り組んでほしいと思います。

もう一つは、職場の問題を取り上げ、要求を作り上げていく努力をお願いしたいと考えます。職場の問題をみんなで解決に向け努力をする、こうした運動を取り組んでいけば、組織拡大は必ずや実現していくと思います。

最後に、私たちにとって何よりも健康が一番大切です。みんなで健康に気をつけながら寒さを乗り切り、うさぎ年にあやかり、今年をみんなで「飛躍の年」にしていきましょう。

団結 抵抗 統一

確信します。手放しで喜べる内容ではありませんが、「最後まで国労が責任をとった」と多くの方々から評価を頂いていることに四半世紀に及ぶ組合差別と闘ってきた組合員と共に素直に喜び、その誇りを胸に今後も運動していききたいと思っています。

さて二〇一一年、福島県支部は、賃金引上げ要求と職場環境・労働条件改善を実現するべく今年も「一人一要求」と系統を超えた仲間との交流に基づき、職場でできる春闘を各分会が創意工夫しながら取り組みます。同時に、昨年の経験と実績に自信を持ちながら新規採用者の国労加入の取り組みを春闘の流れに連動させたいと思います。

労働組合の最大の強みは、現場の実態を誰よりも的確に把握し、適切なチェック・提言活動ができることにあると思います。

昨年10月に行われた「異常時の問題交流」から学んだことや課題についての論点整理を支部が中心となつてすすめ、異常時に各組合員が「営業や運転あるいは設備系統の職場で何が起きているか」「利用者はどうなっているのか」が想像できる、いわば国労的な「気づきの技能」を備えることができれば、国労のイニシアチブのもとに文字通り具現化された「系統間の利害」という垣根を越えた連携を前に、会社こそが「気づくべきだ」ということを提言したいと思っています。

JR不採用問題の全面解決まで、引き続き気を緩めることなく取り組むことは然りですが、私たちの最大の

関心は「今後国労運動をどのように展開していくのか」にあります。日本製携帯端末を揶揄する意味の「ガラパゴス化」が話題になっています。

長期のJR不採用問題の闘いで培ってきた運動を活かすために、今年は「内界」だけの運動に留まることなく、平和フォーラムとの関係強化や交通運輸に携わる労働者との交流など「外界」への運動を進展させていくために、日常的に組合員と役員の相互の意思疎通を十分に行なっていくことをお誓いし新年のご挨拶いたします。

仙台総合車両所支部
庄司執行委員長



新年明けましておめでと
うございます。

昨年は、私たち国労の需要課題であるJR不採用問題の、最高裁における和解を実現させた大変大きな意味を持った年でした。

今年は、残されている闘争団の方々の希望する雇用問題の解決を果たす年にしなければなりません。当支部も、仙台地方本部に結集する仲間の皆さんと共に全力をあげて運動を進めていきたいと思っています。

現在私たちの職場では、退職等により社員数が減る中で、毎年のように業務の外注化が実施され大変な状

況になっています。減ることのない労働災害に加え、不十分な教育のもとでの外注化や、要員補充がままならない中での技術・技能の継承問題等、課題が山積みしています。加えて、一昨年10月に提案された「車両検修合理化」は、12月の解明要求交渉以降、昨年は一度も団交がないという状況にあります。これらの職場の状況と合わせ、施策の具体的説明すら果たせない会社姿勢は、車両メンテナンス軽視に通じ、ひいては鉄道の安全・安定輸送を阻害するものになると大きな危惧を抱かざるを得ません。

私たちは今年一年、「仕事総占検運動」をはじめとした職場に基軸をおいた運動を展開し、会社側の無責任な姿勢を追究し、労働条件改善等の闘いに邁進する決意です。同時にこうした職場における労働運動の強化が組織の強化・拡大につながると思ひ、頑張りたいと思います。

本年が、皆さんにとって良い一年であることを願い、新年のご挨拶と致します。共に頑張ります。

山形県支部
原田執行委員長



新年明けましておめでと
うございます。

私自身、山形県内での会議や集会等で、この間支援を頂いた多くの方々からお祝いの言と共に握手を求められました。また、職場の他労組の方々からもお祝いの言葉を頂きました。

そして、山形県内で6箇所（支部内4か所）で、本部・音威子府闘争団を招いての報告集会を開催し、ささやかではあります。23年余に亘るご支援に対する感謝の報告集会等も開催してきました。

私たち国労にとって大切なことは、闘争団の仲間の闘いに学ぶことです。「団結なくして解決なし」という言葉に代表される団結の大切さ、家族との絆、多くの支援を広めるための惜しみないオルグ活動、不屈に闘い抜く心、それぞれが得たお金をプールした共生・共存の自活体制等です。

闘争団の仲間の闘いに全てを学び実践できるものではありませんが、私たちの運動に生かし、「職場に労働運動」というスローガンを基本とした国労運動を強化し、労働条件改善、組織強化・拡大に向けて、飛躍の一年になるよう共に頑張ります。

郡山工場支部
橋本執行委員長



新年明けましておめでと
うございます。

うございます。

あいさつの前に、元郡工支部委員長の齋藤幸次さんが昨年お亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈りしたいと思います。

昨年一年間を振り返ってみますと、郡工支部にとって様々な出来事がありました。一点目は、業務改善提案による合理化問題です。

私の働いていた保全の職場が外注化されてしまいました。外注化された職場は要員不足であり、これまで私達が行っていた、安全で安心な車両を提供する作業が出来なくなっています。

一昨年も出向を含めた外注化がされ、要員不足の中で事故が起きていますし、その事故を理由に不当な処分が出されています。全く許すことが出来ません。

このような労働実態ではエルダー社員として働き続けることが出来ません。

今後、外注化反対、関連会社の労働条件改善を取り組んで行きたいと思っています。

二点目は、会社間格差是正問題についてです。

貨物会社は11年間ベアゼ口であり、夏季一時金では東日本2・7ヶ月に対し貨物1・58ヶ月、年末一時金では東日本で3・02ヶ月、貨物1・62ヶ月と格差をつけられています。毎月赤字の生活実態を改善させるため、格差是正と春闘を精一杯取り組んで行きます。

三点目は組織強化と強制配転・出向者を戻す闘いについてです。この間、暗い話題の多い中で、高さんが7月1日に新幹線総合車両センターから実に16年ぶりに郡山総合車両センター

に戻って来ました。本人の「どうしても郡山に戻るんだ」の強い意志と、国労運動の成果だと思っています。

今後、強制配転者と出向者を郡工支部に戻す闘いを取り組んで行きます。

四点目は、組合員主義の徹底についてです。

東日本本部が提起している労働協約締結と、会社から提案されるであろう新人事賃金制度についても、全組合員集会等を開催し、議論を進めて行きたいと思っています。

最後に、JR不採用問題についてです。「四者・四団体」で判断し、内容は十分ではありませんでしたが、政治的和解解決を迎えました。

しかし、これからまだ雇用問題が残っています。

郡工支部も引き続きしっかりと取り組むことを申し添え、年頭のあいさつとさせていただきます。

東北自動車支部
佐藤執行委員長



組合員ご家族の皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年は「JR不採用問題」の政治解決を全体で確認したところでした。残された課題は「雇用の確保」です。

この約束が果たされたとき、初めて23年におよぶ紛争の全面解決が図られるの

です。これまでの支援団体や共闘の仲間、「国労」を支え続けてくれた諸先輩方と組合員に心から敬意を表します。

さて、支部の取り組み重点課題でもある労働条件改善の闘いが大きく前進しました。

一つには、JR東日本本社を出向先職場であるバス東北の問題で交渉を行なったこと。二つめには、6年間におよぶ労基署行動の取り組みで、バス東北に労基署から指導がされたことです。

差別を許さない闘いと労基法・就業規則などを守らせる私たち国労運動の正しさの現れであると思います。

このような成果は組織拡大にも大きく反映され、全国の自動車協議会では、昨年一年間で5名の仲間を国労に迎え入れることが出来ました。今年も大胆に国労加入を全員で取り組んでまいります。

しかしながら過日、会津乗合自動車経営破綻したように、全国のパス業界の経営状況は厳しく経営分離や子会社化に拍車がかかり、そこに働く労働者は要員不足を理由に過酷な労働条件下で低賃金、さらには、嘱託・パート労働などの「雇用身分差別」に置かれている現状です。

混乱を続ける政治状況や営利優先の企業体質の下、私たち労働組合に課せられた課題は多く厳しい情勢ですが、広範な民主勢力と共に「JR不採用問題」の最終解決、労働条件の改善、賃金格差の改善などの闘いに国労が先頭に立って「総団結」で闘ってまいります。